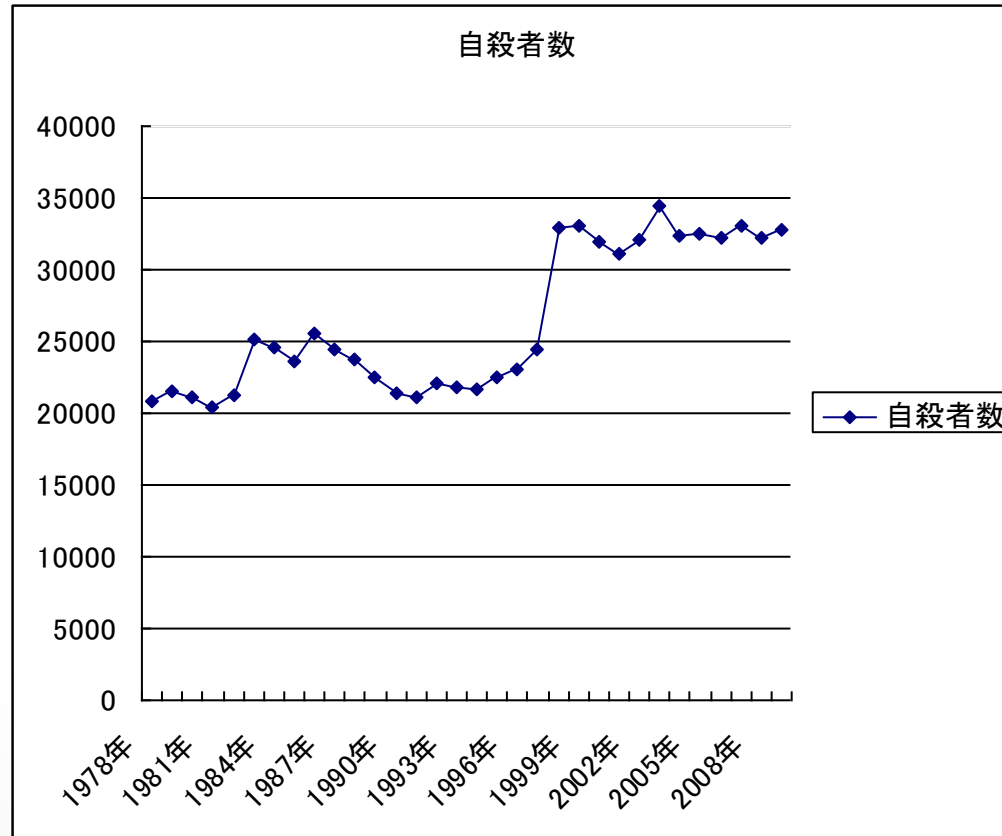


# 12年連続自殺者が3万人を 越える日本社会

何処に問題があり何が求められているか

働く者のメンタルヘルス相談室  
伊福 達彦

## 日本における自殺者数の推移 (30年を振り返る)



# 12年連続自殺者が3万人を超える 日本社会

- 親しい人・愛する人を失う悲しみ
- がんで、事故で、犯罪で失う悲しみ
- それが自殺であれば、悲しみと自責の念と、世間の偏見に耐えなければならない

# 自殺は社会問題

- 自殺は、とても個人的な所為のように見えます。
- 精神障害による自殺の取り扱いについて（平成11年9月14日 基発第545号）
- 業務上の精神障害によって、正常な認識、行為選択能力が著しく阻害され、又は自殺行為を思いとどまる精神的抑制力が著しく阻害されている状態で自殺が行われたと認められる場合には、結果の発生を意図した故意には該当しない

## 世間の偏見、遺族は2次被害

### 1. 長女（22歳）の自殺

遺品回収代30万円。火葬費用40万円。お払いや修繕費80万円。  
備品買い換え12万円。アパート家賃損料120万円の請求

### 2. 弟（40歳）の自殺。

家賃補償など900万円を求め提訴される。「自殺を十分に予見でき、  
回避可能であった」と遺族の過失を主張

### 3. 息子がアパートで自殺

アパート建て替え料など1億2000万円請求裁判。

### 4. 妻の縊死を発見した夫。警察の事情聴取10回以上。通夜・葬儀 中にも呼び出し。親戚からは殺人者扱い。自死遺体の扱いのお粗末さ

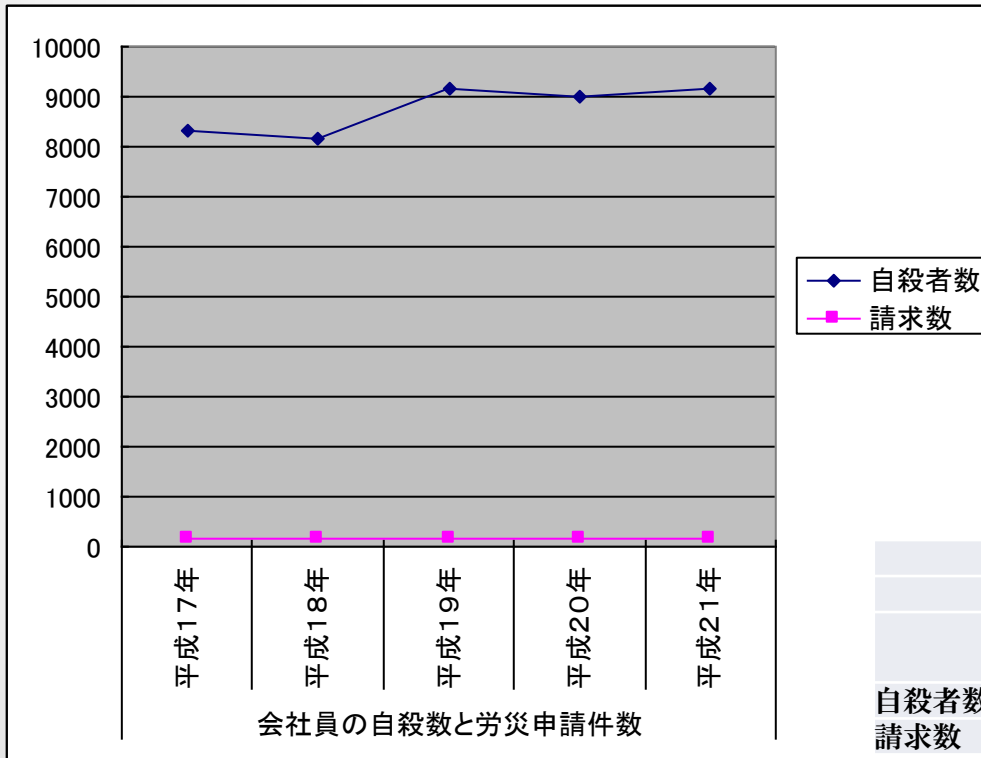
### 5. 遺族に対して行政の相談窓口が

「死ぬくらい嫌な仕事なら、やめれば済む」 「勝手に働いて、勝手に死んだ」  
「自殺する人たちは低階層である」 「夫婦仲が悪かったのでは」 「家庭に問題  
がある」

全国自死遺族連絡会調べによる

# 会社員の自殺数と労災請求数

5年平均1.8%



会社員の自殺数と労災申請件数					
	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
自殺者数	8312	8163	9154	8999	9159
請求数	147	176	164	148	157

## 自死は世間に隠す

「私自身19歳の時に無二の親友を自死という形で失いました。彼女の身内は“世間体”を崩した娘として事件を消しました。私の中には、あれから1日も彼女の存在が消えません。悲しみは残ります。」（50代女性）

# 自決は名誉、自殺は恥？

- 自決： 名誉 軍神・靖国・忠臣蔵
- 特攻隊、玉砕、万歳突撃、集団自決  
生きて虜囚の辱めを受けず  
日本人の誇りはその死に方にある
- 自殺： 恥 世間体を崩す 穢れ（お祓い）
- 不名誉除隊
- 自決賛美と自殺蔑視は表裏の関係
- 自死者は自裁（自決）意識、他人は不名誉自殺と意識



# 自殺急増、何故原因不明

- 複数の原因が絡む
- 1. すぐ思いつくのが、うつと自殺うつになりやすい生活環境の変化があつたのか
- 2. 被雇用者9000名の自殺、失業者の自殺
- 雇用や社会・経済に何が起こつたのか
- 3. 自決は名誉・自殺は恥という風土
- 原因究明の前に結果を見てみよう

# うつと自殺

鬱になって仕事ができなくなると、社会的に己の価値なくなってしまう気がして己を責め出し焦燥感が出る。

この身が存在しているからいやな感じがするのだと思い不快感から逃げ出すには存在そのものを消すのが一番なのは、と思うようになる。

そして見えない力が背中を押すのです。

- うつ体験の内科医：南木佳士（毎日新聞2009年5月17日）

# うつ病になった内科医の体験

それよりも楽なのは自裁だな、と耳元でささやく気配を感じた。・・・すり足で玄関の方に向かいながら、迷いなく、より楽な選択をするために台所に入った。流しの下戸を開けると、包丁が3本あった。いちばん奥の出刃包丁に手を伸ばした。すべては見えないけれどあらい難い力に後押しされた行動で、動いている間は恐怖感はなく、かぎりなく自動機械に近い存在に変身してしまった気分だった。

そのとき・・・・・・・・・・（南木佳士著「トラヤ」）

冬の朝、死の淵に見入っていた私を引き戻したのは、足元にまわりつく小さな生き物のぬくもりだった。（前掲書表紙より）

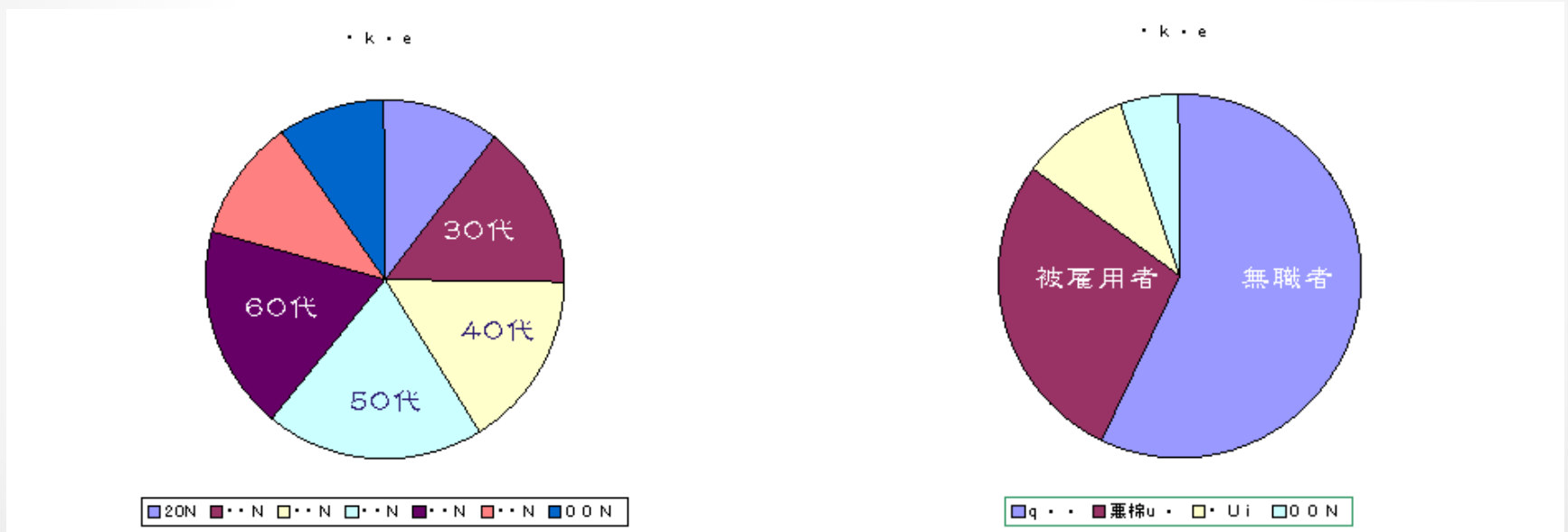
# 精神科医療の現実

- 内海健 帝京大学医学部精神神経科助教授の憂慮
- DsMに象徴される、昨今の精神医学の現状を憂慮するのは私だけではない。というより、むしろ多くの精神科医が危機感を持っているのではないだろうか。
- 第4版が出たのが1994年であるから、もう10年以上も改版きれていない。第5版が準備されていると聞くと、まだ世に出る見通しはついていないようである。このところ思うのだが、いったんeasyなところに落とし込んでしまったので、これはまずいと思いながらも一度高い水準に戻すのは、結構たいへんな作業になっているのではないだろうか。
- おそらくDSMなどは、門外漢でも一週間くらい取り組めば、取得出来るような代物である。確かに一定のわかりやすさというのは必要だろう。一般の人たちにとっても役立つ。しかしそれにしても限度というものがある。
- これほどeasyなものになると、ありがたみもなくなる。病への敬意もなくなる。
- 内海健著「うつ病新時代」 勉誠出版より

## 年代別自殺者と職業別自殺者の割合（平成21年度）

### 年代別自殺者

### 職業別自殺者



- 被雇用者と無職者の合計が働き盛りの30代40代50代、60代の合計とほぼ同じ

# 無職者と被雇用者の自殺の異様な増大

